

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 辻 哲也 慶應義塾大学 リハビリテーション医学教室 准教授

研究要旨

高齢がん診療指針の策定にあたり、高齢がん患者における、がんリハビリテーション診療のあり方を検討し、高齢者がん医療 Q&A 総論において、がんのリハビリテーション診療の章を執筆した。

A. 研究目的

高齢者がん診療指針を策定するにあたって、高齢がん患者における、がんのリハビリテーション診療のあり方を検討し、同指針に反映させることを目的とする。

がんリハビリテーションの効果に関する研究(研究開発代表者:辻哲也)においては、がんのリハビリテーション診療ガイドライン第2版において、「高齢がん患者の特徴・評価」を掲載し、高齢がん患者のリハビリテーションの普及・啓発の一環とした。

B. 研究方法

高齢者がん医療を考える会議等の、がん医療やがんリハビリテーションに携わる有識者の意見を聴き、拠点病院等における高齢がん患者に対するリハビリテーション診療のあり方(正しい知識の普及・人材育成・提供体制の整備・研究の促進)を検討した。また、高齢者がん医療 Q&A 総論においては、がんのリハビリテーション診療の章を執筆した。

さらに、厚労省研(がん対策推進総合事業)がんリハビリテーションの均てん化に資する効果的な研修プログラムの策定のための研究(研究代表:辻哲也)においては、グループワークを実施し提言をまとめた。AMED 革新的がん医療実用化研究事業「外来

C. 研究結果

がん医療やがんリハビリテーションに携わる有識者の意見を聴き、拠点病院等における高齢がん患者に対するリハビリテーション診療のあり方(正しい知識の普及・人材育成・提供体制の整備・研究の促進)を検討した。

1)2回の班会議(5月、1月)への参加

がん医療に携わる多方面の専門家から構成される班員との意見交換を行い、がんリハビリテーション医学・医療の専門の立場から発言を行い、コンセンサスを得た。

2)高齢者がん医療を考える会議(1月、2月)への参加

高齢者医療全般に携わる多方面の専門家

との意見交換を行った。

3) JCOG 高齢者研究委員会コアメンバー会議
(6月、8月、11月)・勉強会(2月)への
参加

委員会のコアメンバーに就任し、高齢者
がん医療に携わる多方面の専門家から構成
される委員との意見交換を行った。

高齢者がん医療 Q&A 総論においては、が
んのリハビリテーション診療の章を執筆し
た。

D. 考察

1. がん医療におけるリハビリテーション診
療の意義
2. 高齢がん患者におけるリハビリテーシ
ョン診療の重要性
3. がんのリハビリテーション医療の定義
4. がん患者に生じうる障害の種類
5. がんのリハビリテーション診療の病期
6. 高齢がん患者のリハビリテーション診療
において用いられる評価法
7. がんのリハビリテーション診療の実際.
8. 高齢がん患者のリハビリテーション診療
に影響を与える主な問題

各論

Q1. 高齢がん患者のリハビリテーションに
おける身体機能評価を行う際の留意事項は
何ですか？

Q2. 高齢がん患者の周術期リハビリテーシ
ョンにおける留意事項は何ですか？

Q3. 高齢がん患者の化学療法・放射線療法中
後のリハビリテーションにおける留意事項
は何ですか？

Q4. 高齢がん生存者にリハビリテーション
は必要ですか？

・厚労省研(がん対策推進総合事業)がんリ
ハビリテーションの均てん化に資する効果
的な研修プログラムの策定のための研究
(研究代表:辻哲也)においては、2018年
度のがん医療に携わる多方面の専門家や患
者会代表者が参加し、2回のグループワーク
を実施、その中で、高齢がん患者のリハビ
リテーション診療のあり方についても議論
を行った。その成果を、「がんのリハビリテ
ーション医学・医療のあり方」として提言を
まとめた。

E. 結論

AMED革新的がん医療実用化研究事業「外来
がんリハビリテーションの効果に関する
研究(研究開発代表者:辻哲也)において
は、がんのリハビリテーション診療ガイド
ライン第2版の策定作業を進め、2019年6
月に刊行予定である。その中で、第1章 総
論・評価において、「高齢がん患者の特徴・
評価」を付記として掲載し、高齢がん患者
のリハビリテーションの普及・啓発の一環
とした。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. Morishita S, Tsubaki A, Fu JB, Mitobe
Y, Onishi H, Tsuji T. Cancer survivors
exhibit a different relationship
between muscle strength and

- health-related quality of life/fatigue compared to healthy subjects. *European Journal of Cancer Care*. 2018;27(4):e12856.
DOI:10.1111/ecc.12856
2. Morishita S, Mitobe Y, Tsubaki A, Aoki O, Fu JB, Onishi H, Tsuji T. Differences in balance function between cancer survivors and healthy subjects; A pilot study. *Integrative Cancer Therapies*. 2018;17(4):1144-1149.
DOI:10.1177/1534735418790387
3. Naito T, Mitsunaga S, Miura S, Tatematsu N, Inano T, Mouri T, Tsuji T, Higashiguchi T, Inui A, Okayama T, Yamaguchi T, Morikawa A, Mori N, Toshiaki T, Strasser F, Omae K, Mori K, Takayama K. A feasibility study of early multimodal intervention for elderly patients with advanced pancreatic and non-small-cell lung cancer: a NEXTAC-ONE study. *Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle*. 2019;10(1):73-83.
DOI:10.1002/jcsm.12351
4. Tsuji T. The Front line of cancer rehabilitation in Japan: current status and future issues. *Journal of Cancer Rehabilitation*. 2019;2:10-17.
5. 立松典篤, 岡山太郎, 辻哲也, 岩村明, 田沼明, 内藤立暁, 光永修一, 三浦理, 大前勝弘, 盛啓太, 高山浩一. 悪液質高リスクの高齢進行がん患者に対する在宅ベースの下肢筋力トレーニングプログラムの開発—NEXTAC-ONE 試験の運動介入の詳細—. *Palliative Care Research*. 2018;13(4):373-381.
6. 辻哲也. リハビリテーション医学・医療のすべて 支持・緩和医療主体の時期のがんリハビリテーション医療. *医学のあゆみ*. 2018;264(13):1257-1262.
7. 辻哲也. リハビリテーション医学・医療の新たな可能性 がんのリハビリテーション医療. *日本医師会雑誌*. 2018;147(9):1784-1788.
8. 原田剛志, 辻哲也. 運動療法の新領域: 拡がるターゲット がんのリハビリテーション医療: がんサバイバーに対する運動療法を中心に. *体育の科学*. 2018;69(2):102-107.
9. 辻哲也. 臨床腫瘍学の実践 副作用対策と支持療法 リハビリテーション. *臨床腫瘍学 改訂第5版*. 南江堂. 2018:742-746.